



発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町3-6  
☎0959(72)3957  
●ホームページ●  
<http://www15.ocn.ne.jp/~mikokoro/>

## 「行つてきまーす」

助任司祭 山添克明

感謝。有難い。福江を離れるにあたり、その言葉しか頭に浮かびません。パウロは「すべての人に対してすべてのものになりたい（一コリント9章）」、そう願って、世界にキリストを伝えました。わたしが福江教会の皆様のために、どれだけ役に立ったのか、ためになったのか、それはわかりませんが、私が少なくとも言えるのは、たくさん家族が増えたということ。たくさんのお父さん、お母さん、お兄弟、お姉さん、お兄さん、お孫さん、おひ孫さん。いっしょに仲良く遊んでいたかと思えば、喧嘩してしまったり、結婚しようかしらい話したり、結婚しようかしらいかと一緒に考えたり、親や社会、教

会に対して、いろんな話をした兄弟、姉妹たち、「あんな、しっかりせんね」と言ってくれた母ちゃんたち、焼酎片手に「神父はこげんなからんといかん」と教えてくれた父ちゃんたち。つい先日、本物の母から電話がかかって、思わず「どれが本物の親かわからん」と言ってしまうた。私を愛してくださった福江の教会家族の皆様から感謝します。司祭に叙階され、最初の赴任地が福江教会であったことを心から嬉しく思います。「福江にずっといたい...」そんな思いが出てきます。皆様のおかげで司祭としての自信をつけ

ることができました。先輩司祭からいただいた「なにも考えることなく、ただそこにいる人といっしょに歩けばいい」という言葉。その思いを胸に五島入りしました。自分のわがままで、一緒に歩いていない時があったかもしれません。その人に対して、その人のものになつていなかったかもしれない。ごめんない。むしろ皆さんが、私に対して、私のものとなつてくださったのではないかと思えます。ありがとうございます。「すべての人に対してすべてのものになる」。ひとりひとりが、その思いを

持って、交われば、家族のきずなは、間違いなく、深まる。皆様に教わりました。

「ひとりひとりの中におられるキリストを大切に」と説教のなかで何度となく申しましたが、説教は、信徒に対して教えるものでありながら、自分に対する戒めになつているということにも気付かされました。自分の不甲斐なさから、なかなか説教ができない時がありました。人は完全ではありませんが、完全でないからこそ、お互いに助け合える、絆を深め合える。自分の不完全さを素直に認め、受け入れ、どれだけ助けを受けているかをいつも実感する。そんな人間でありたいです。司祭として福江で歩みながら、いろんな心を学ばせていただきました。たくさんのお恵みに感謝です。

司祭生涯の中で、初任地福江を忘れることはないでしょう。心のどこかにいつも福江があるでしょう。福江教会の発展、皆様の幸せ、健康のため、引き続きお祈りさせていただきます。そのかわりに、私が司祭として生涯を全うすることができるよう、皆様もお祈りをよろしくお願いします。しばらく福江を離れます。行つてきます。神様と皆様に感謝。アーメン。



# 福江教会献堂五十周年・信徒会館落成式

四月二十二日(日)前日の悪天候が一転晴れ上がったなか、高見大司教様の司式で福江教会献堂五十周年記念ミサと信徒会館落成祝別式が行われた。

福江の町の中心部にそびえたつその姿は信徒のほこりであり、また新聖堂落成まもなく起こった福江大火で難を逃れるなど象徴的な建物である。

小教区の歩みの中で、節目となる五十周年を迎え記念ミサの中でこれまで信仰を伝え続けた先祖の思いをたたえ、また次の世代へその思いをつたえることができるよう

祈りを捧げた。

ミサの前に、長年信徒の集いの場所であった信徒会館の建て替え落成祝別式も行われた。

今度の、信徒会館は靴のままでも利用できることが一番の特徴で、入り易さを感じさせる建物である。

また、ホールを中心に通夜にも利用できるように和室や宿泊できるスペースもある。

これからの、下五島地区の中心的施設となる可能性も考え事務室ももうけられている。

ミサ後に、工事期間中お世話に

なった近隣の方々や工事関係者、下五島各小教区代表者を招いて、祝賀会も行われた。



# お別れ遠足

教会学校

去る3月3日(土)に教会学校お別れ遠足を開催しました。

子供たちだけで総勢37名の参加があり、1年生から6年生まで共々楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

この春からはそれぞれ進級し、どんどん頼もしい存在になってゆく事でしょう。続けてお励まし等よろしくお願い致します。

2011年度もたくさんの御協力ありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。



# 心からの「はい！」

## シヨファイユの幼きイエズス修道会

Sr 宮本智子

一昔前、ちょっとしたブームを呼んだ「クイズ\$ミリオネア」というテレビ番組を覚えておられるでしょうか？ クイズの内容よりも、名物司会者のみのもんたさんが、回答者の答えに対して、様々な表情を浮かべつつ「ファイナルアンサー？」、つまり「その答えでいいのか？」と確認するシーンの方が印象深いかもしれません。



シヨファイユの幼きイエズス修道会のHPより抜粋

初誓願以降、私は学校という使徒職で奉仕してきました。「終生誓願って何？」と聞いてくる生徒たちに対して、「うーん、ファイナルアンサーってこと。」と思わず答えたいことがあります。すると生徒は、誓願の意味は分からずとも「わあ、大変や。悩んで答えなあかんのやな。がんばりや！」と言ってくれました。そう、ファイナルアンサーは、なかなか大変なことなのです。番組内では、自分の答えに自信がない場合、協力者に電話をしたり、会場の観客に聞いたりすることができました。そのアドバイスを参考にしながらも、最終最後は、回答者自身が自分で決めた答えを言うのが約束で、自分で答えるその答えに責任を持ち、手元にある賞金をすべてつぎ込む、というルールでした。召命の道も、どこかそれと似ています。後押しも応援もたくさんあるし、いろんな声が聞こえてくる。結婚生

活という道だって、信徒としての奉獻の道もある。でも、最終最後は自分で選ぶ、自分のなかに響く声を受け止め、「神さま、私はこれを選びます！」と答えるのです。悩んで選んでもなお、みのあるように「：ファイナルアンサー？」とダメ押しのように聞こえる声もある。それでもなお、「はい」とその答えに自分のすべてを賭けて、責任をもって応えていこうとする私があります。



この「はい」までには、たくさんの方々の支えがありました。回り道をする私を、あきらめず祈り続けてくださった方、励ましの声をかけてくださった方、その一つひとつが、私のなかに響く声となりました。神さまは、みのあるはるかにこえるねばり強さで私と向き合い、心からの声を引き出して確かなものとしてくださいました。

3月24日、大阪教区池長大司教さま司式のもと、みなさまからの力強いお祈りの風を感じながら、自分のすべてを賭ける「はい」を終生誓願として神さまにお捧げすることができました。この「はい」を、イエズスさまにならって生きていく新たなスタートとし、主と共に最後まで歩み続けることができますように、どうぞ今後ともお祈りください。  
福江小教区の皆さまの上に復活さ

れた主からの平和がありますように、感謝を込めてお祈り申し上げます。  
※本会のホームページに、誓願式の様子が載っています。  
<http://www.osanaki-iezusu.or.jp>

## 神学校入學

### おめでとうございませす

4月からまた一人福江教会出身の神学生が誕生しました。  
松山町の吉原祐則君です。

長い間侍者を務め、また教会の子供たちのよき先輩として頼れる存在でした。親元を離れさびしいときもあると思いますが、神学生の仲間達と協力し合い召命の恵みを授かってください。



右側が吉原君、中央は浦頭教会の赤尾君、左は福江教会の松本君の神学生たち

# 教会の改修及び維持活動

利点がありました。  
■土足の問題点

【放送設備どうかわった?】

音質が良くなり、くもった音声  
が明瞭に聞こえるようになりました。  
今回の工事で聖堂入口(玄関)に  
もスピーカーが付き、ドアを閉めて  
も外にいる人に聞こえるようになり  
ました。

【教会の床が土足用のじゅうたんに  
なりました。】

建堂50周年記念の一環として、下  
口神父様の意向により床がじゅうた  
んになりました。

玄関ドアも、開閉式からスライド  
式になり、子供が手を挟む心配が減  
りました。

下口神父様から高額の資金を出し  
て頂き、経済問題さんを中心に工事  
は進められました。

土足になった背景には、大司教様  
の意向により、他の教会もぞくぞく  
と土足になっている状況があります。  
そんな中当教会も土足になりました。

## ■土足の利点

玄関で靴を履き替えることがなく  
なったことで、足の不自由な信者さ  
んも出入りが楽になりました。

玄関先で混雑することもなくな  
り、寒い日でも足元が暖かいなどの

掃除は掃除機だけで大

丈夫なのか。じゅうたんはどのくら  
いそのまま使用できるのか。

じゅうたん張替えにはどのくらい  
費用がかかるのか。

今から維持していく中で問題は出  
てきそうです。

## 【教会内の掃除について】

今年の1月に教会内の床が全面絨  
毯になりました。玄関での靴の履き  
替えが不要になり、出入りがし易く  
なったことと思います。

これに伴い、掃除の方法が変わり  
ました。今回、新たに掃除機を5台  
購入したのと、コンセントも増設し  
ました。長椅子を前後に移動しなが  
ら掃除機をかけて下さい。掃除機を  
かける人以外に椅子を動かす人が  
2名、掃除機のコードをたぐる人  
が1名の計  
4名が1組  
になって作  
業するとス  
ムーズに行  
えると思ひ  
ます。

当番の際  
はよろしく  
お願いしま  
す。



# 子供たちの灰作り

少し暖まった。やがて、十分ほどで  
灰は出来上がりました。

二月十七日(土) 寒い雪の降る日、  
子供達約二十人が教会学校の後に山  
添神父様やシスターと一緒に、集め  
られた枝で灰作りを行いました。

山添神父様やシスターが枝を燃や  
して汚い心を燃やし、暖かい心にな  
るように気持ちを込めて火の中に投  
げられるように言われた。

それから子供たちは、わいわい楽  
しく枝を火の中に投げ入れその火で



## 編集後記

平成24年4月20日一人の司祭が  
五島から去りました。島の送迎は  
ピークを過ぎていくにもかかわらず  
ず、早朝にもかかわらず大勢の見  
送る姿がありました。

みんな元気に見送るが、その心  
の中には一人の人間と別れなけれ  
ばならない悲しい気持ちがあった  
に違いないと思います。

今思えば、4年前助任司祭として  
はじめてこの地に任命され懸命に  
司祭として信徒と共に過ごされま  
した。

若くて、柔軟な人柄はすぐに、  
子供達、保護者から受け入れられ、  
年配の人たちへの優しい気遣いも

すぐに浸透していき福江教会の司  
祭として頼れる存在となりました。

「浦上教会での活躍を祈ります」  
「健康管理には十分気をつけて」  
「また五島での再会を楽しみにし  
ています」と人それぞれ見送る中  
での思いは違うと思います。

いろいろ世話になった筆者とし  
て紙面を借りてこの言葉を山添克  
明神父様へ贈ります。

4年間ありがとうございました。  
今後も司祭として神と人とに  
仕える導きの光としての役割を果  
たして頂くことを願い、そしてこ  
の福江教会で山添神父様へ会えた  
こと、次の地へ平安に送り出すこ  
とができたことを神様に感謝した  
と思います。